

「米国南部アーカンソーでの交換留学」(磯崎智聖)

GMS学部3年の磯崎智聖さんは、駒澤大学交換留学プログラムを利用して、アメリカ南部のアーカンソー工芸大学(駒澤大学協定校)に1年間(2010年~2011年)の交換留学を行ってきました。この交換留学プログラムは、派遣大学での1年間の授業料が無料になり、かつ派遣先大学で取得した単位(授業科目)が、申請し認められればGMS学部の卒業単位(卒業に必要な科目)として認定される(つまり、卒業するために取得しなければいけない科目が少なくすむ)という、とてもお財布に優しく時間の無駄もない便利なプログラムです。

また交換留学を行うことができる協定校は、アーカンソーの他にもオーストラリア(クイーンズランド大学、グリフィス大学)、米国カルフォルニア(カルフォルニア州立大学ロサンゼルス校)、イギリス(キングストン大学。ただし、キングストンの場合は授業料は有料)、フランス(プロヴァンス大学)、韓国(東国大学)、台湾(淡江大学)、中国(華東師範大学)、エジプト(カイロ大学。募集詳細は問合わせ中)など多岐にわたりますので、自分の興味に応じた留学が可能となっています。

このプログラムを利用して磯崎さんは、専門のメディア・情報関連授業(①Two-Dimension Design, ②Web Publishing I & 2, ③Basic Photography, ④Broadcast Practicum, ⑤Television news production,)に加え、語学(①English as Second Language, ②Intermediate Japanese II)や一般教養関連授業(①PHYS wellness/ Fitness ②Introduction to ceramics)等、計38単位を履修しました。また磯崎さんは教室にとどまらず、地元の小学校を訪問して日本の紹介を行う等、比較的日本の情報が少ないアーカンソーにおいて、日米の相互理解のための地域活動も行ってきました。

以下は、磯崎さんにお聞きした内容です。

Q1. 海外研修のきっかけは何でしたか?また、なぜたくさんある候補地の中でアーカンソーに行くことを決めたのですか?

海外研修のきっかけは、英語の力を上達させることはもちろん、他国の地に足を踏み入れ、その国の文化を直接目にし、現地の生の英語を耳にしたいと思ったからです。

アーカンソー工芸大学に行くことと決めた理由は、同校が駒澤の交換留学の提携校であり、現地での取得単位がGMSの単位として認定を受けることができるからです。また、就職活動の前に帰国したいため、日程がちょうど合ったという理由もあります。

Q2. 渡航前の準備として、何かしたことはありますか?

特に準備したことはありませんが、一杯アルバイトをして貯金をしました。また、日本の事を

少し調べて行きました。

Q3. 今回の研修に費やした費用は、いくらくらいですか？

交換留学だったということもあり、費用はあまりかかっていません。向こうでの生活費のみでした。月1万円くらいです。

Q4. 現地では、どのようなところに宿泊していたのですか？ また、食事は口に合いましたか？

現地では、大学の寮に住んでいました。食事は学校の食堂、または、外食していました。ファーストフード、中華、メキシカン、タイ料理とバリエーションは色々です。

Q5. 現地では、どのようなスケジュールで毎日を過ごしていたのですか？

私の場合、授業が月曜日から木曜日まであり、金曜日は授業がありませんでした。日本の大学のように空きの時間は勉強したり、趣味の時間にあてたり、自由に使っていました。

Q6. クラスメートには、どんな人達がいましたか？

クラスメイトは、殆どアメリカ人や現地の人が多かったです。ただし大学外の活動でインターナショナルスチューデント（留学生）が集まる場があり、そこでは、中国、ネパール、サウジアラビア、メキシコ、モロッコ、ナイジェリア、ベネズエラとたくさんの国々の人とも知り合いました。

Q7. 現地での心温まるエピソード等ありますか？

東日本大震災（2011年3月11日発生）の時、仲良くなったアメリカの年配のおばさんからは電話がかかってきて、「一人は心細いだろうから、一緒にニュースをみて、夜ごはんはどう？」と誘われたり、周りの人々が私の家族や友達の安否をとて心配してくれたりしました。

また、私が履修していた **Introduction to ceramics** のクラスでは、「日本のために何かできるか」とクラスの時間でディスカッションが開かれ、さらに震災時はたくさんの人々から日本への応援のメッセージを頂きました。感謝の気持ちで、いっぱいになりました。

Q8. 現地で受けたカルチャーショックは、何かありますか？

ショックだったのは、トイレの扉の隙間が大きく、足元が隠れないことでした。座っている時もドアの隙間から目が合うのではないかとひやひやでした。



Q9. 今回の研修は、磯崎さんの大学生活や今後の人生においてどのように生きてくると思いますか)？

今回の交換留学によって、より英語を好きになったうえに、「もっと上達したい、今後も英語を使っていきたい」と思うようになりました。

また、日本を離れアメリカという地で暮らしてみて、自分は本当に日本が大好きなのだということを再認識しました。友人に日本の事を教えることはもちろん、小学校で日本の紹介をしたり、日本語を小学生に教えたり、日本について知ってもらふ事、教える事を楽しく思えました。

将来は、今回経験した事や英語力を生かされる仕事につけたらいいなと思いました。

Q10. 最後に、これから海外研修を行いたいと思っている人へのアドバイスやメッセージをお願いします。

アドバイスとしては、出逢う人一人ひとりとの出会いを大切にすることです。異国の地で困ることは多々あります。そして、その時に助けてくれるのはその地で出会った人々であることが多いです。日本以外の国に自分の身を置いて、あらゆるモノを目にし、体験することによって、視野は広がり、考え方も違ってくると思います。それらはとてもよい経験になると思うので、最初は大変かと思いますが、是非是非頑張ってください。(おわり)